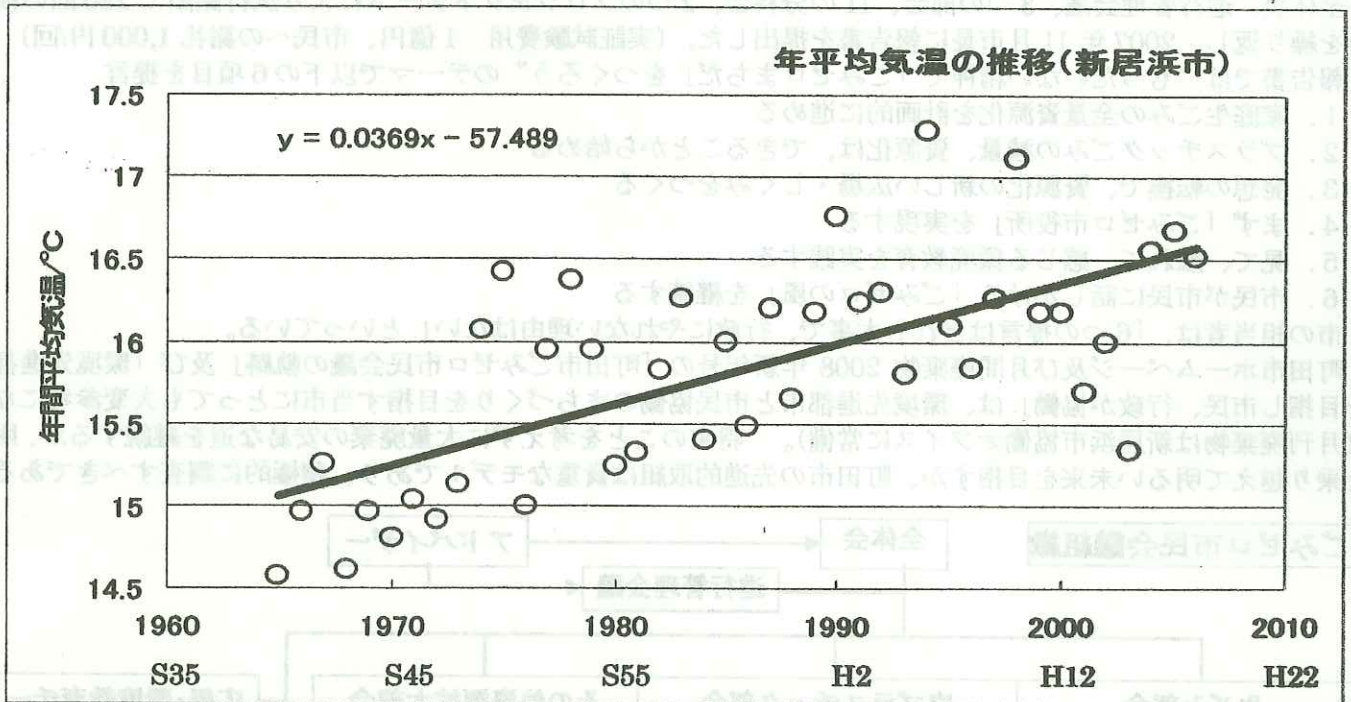




新居浜も温暖化が進んでいる！



今日買ったこれ何割かごみになり

気が付けば茹で蛙なり温暖化(茹で蛙の法則)

性急な便利快適自滅の道

ナポリごみ人ごとならないごみの山

地球温暖化問題は人類の生存にかかわる最も重要な環境問題の一つである。最近、環境省は、日本の平均気温は、今後100年で4.7℃上昇するという試算を発表した。それでは、新居浜でのこれまでの気温の変動はどうだったのだろうか。

新居浜では消防署が気象観測を行っている。1965～2006の41年間の年間平均気温の推移をグラフに示す。ここに示したデータについて、直線的に変化したと見なして、最少自乗法というデータ処理方法で直線(グラフ中に示す)を求めた。この直線は、毎年0.0369℃、41年間では1.51℃だけ気温が上昇したことを表している。これを100年間に換算すると、3.69℃の気温上昇に相当する。これは過去の実績だが、我々の生活様式の変化を考えると今後はこれ以上に温暖化が進むと推測される。新居浜も世界の気温変動と無関係ではないことを認識しなければならない。地球温暖化は他人事ではないのだ。(真鍋)

松山地方気象台によれば、同気象台観測データでも松山地方の年平均気温は、約1.6度℃/100年の上昇傾向を示している由である(平成19年10月27日第5回愛媛県地球温暖化防止推進員等研修会講演)。

温暖化は高緯度地域ほど温暖化傾向が強いといわれるが、全地球的に同時進行している証拠であろう。(地域・地勢により幾らか違いはあろう。)(編集者 田中)

一口メモ：3Rとその順序(それに必要なエネルギー消費から)

1. リデュース Reduce：廃棄物を元から発生抑制…ごみになるものを買わない
2. リユース Reuse：使用済み製品の再使用…修理して再度使用、又は他の用途に再使用
3. リサイクル Recycle：使用済み製品の回収・再生…一旦潰し、資源・原料化して作り直す

発行元 新居浜環境カウンセラー交流会(NiKK)

〒792-0023 愛媛県新居浜市繁本町8番65号

市民文化センター・まちづくり協働オフィス内(電話・FAX 65-3158)

ホームページ <http://neco100.hp.infoseek.co.jp>

代表 真鍋 昌裕 事務局 安孫子 神岡 田中(編集)

人口40万人の町田市（東京都）がごみゼロを目指す

本誌第2号〔2005年11月発行〕においてゼロ・ウェイストを目指す徳島県上勝町の環境行政先進事例を紹介した。これに対し、人口2,000人の町の話で新居浜市では不可能との意見もあった。本誌第4号（2006年7月発行）では人口10万人の多治見市のごみゼロへの動きを紹介した。今回は40万人都市町田のごみゼロへの挑戦を紹介する。町田市では市長が、「燃やさない・埋めない・作らない」方針を掲げ、「ごみゼロ市民会議」に参加する市民を公募した。130人以上の市民が参加し、2006年10月に「ごみゼロ市民会議」を発足させた。

全体会、進行管理会議、3つの部会、11の分科会、2つのプロジェクトチームにより試行錯誤で280回の検討会を繰り返し、2007年11月市長に報告書を提出した。（実証試験費用 1億円、市民への謝礼1,000円/回）

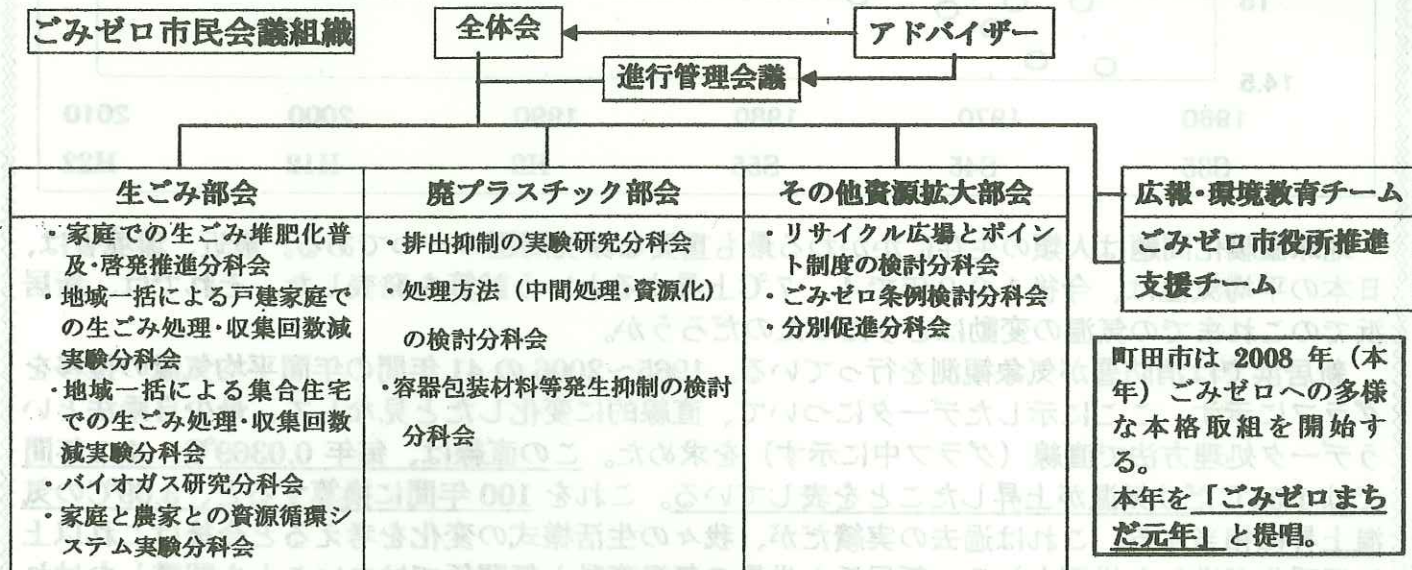
報告書では“もったいない精神で「ごみゼロまちだ」をつくろう”のテーマで以下の6項目を提言

1. 家庭生ごみの全量資源化を計画的に進める
2. プラスチックごみの減量、資源化は、できることから始める
3. 発想の転換で、資源化の新しい広場・しくみをつくる
4. まず「ごみゼロ市役所」を実現する
5. 見て、触れて、感じる環境教育を実践する
6. 市民が市民に話しかける「ごみゼロの風」を継続する

市の担当者は、「6つの提言はどれも大事で、行政にやれない理由はない」といつている。

町田市ホームページ及び月間廃棄物 2008年新年号の「町田市ごみゼロ市民会議の軌跡」及び「環境先進都市を目指し市民、行政が協働」は、環境先進都市と市民協働のまちづくりを目指す当市にとっても大変参考になる（月刊廃棄物は新居浜市協働オフィスに常備）。将来のことを考えずに大量廃棄の安易な道を継続するか、困難を乗り越えて明るい未来を目指すか、町田市の先進的取組は貴重なモデルであり、積極的に調査すべきである。

ごみゼロ市民会議組織



町田市のホームページ：<http://www.city.machida.tokyo.jp/shisei/shingikai/gomizero/index.html> (谷川)

おすすめホームページ

- ・ asahicom : 朝日新聞 地球環境 <http://www.asahi.com/special/070110/>
- ・ ニュース・環境 goo <http://eco.goo.ne.jp/news/>
- ・ yahoo ニュース <http://dailynews.yahoo.co.jp/fc/science/index.html>

平成18年度廃棄物処理結果概要

●廃棄物9種分別効果（災害ごみ分除去）

	g/人・日	対平成17年	地域ごみステーション	g/人・日	対平成17年比（倍率）
一人一日当たり廃棄物量	1,240	▲ 3.0%	資源ごみ回収量	110	3.1倍
うち家庭系ごみ量	797	▲ 2.6%	家庭系埋立廃棄物量	20	0.38倍（約1/3）
（災害ごみを含む廃棄物量）	（1,261）	（▲14.1%）			

●廃棄物処理費用（災害ごみを含む）

	平成18年度	平成17年度	対平成17年
収集・処理費等総額	1.567 百万円/年	1.624 百万円/年	▲ 3.5%
一人当たり処理費用	12.4 千円/年	12.8 千円/年	▲ 3.1%
トン当たり処理費用	26.8 千円/トン	23.9 千円/トン	12.1%増

トン当たり処理費用の増加は、前年度に比べて災害ごみの大幅減による廃棄物処理総量の減少による。廃棄物処理総費用は上記の他、現在単年度決算している設備費等も、耐用年数平均化等して加算すべきであろう。